

「覚える」苦勞 からの解放

BASIC ENGLISH は全部で 850 語。これだけで日常レベルの 2 万語に相当する意味内容がカバーできる。動詞（作用語）は 16 語だけだが、実質的には 4,000 語の動詞の代用が可能。

英文の構造語 の根源的意味 につよくなる

少数の語をあやつる練習をととして、自然に、英文法が身につく。また、利用度（頻度ではない！）の高い語で構成されているので、BASIC words を使って、やっかいな英単語を明解に定義づけできる。

日本語にも良い影響 考える力がつく

単にコトバ学習にとどまらず、分析的に、明晰に考える習慣を育ててくれる。あいまいな感覚表現におちいる語は BASIC ENGLISH には含まれていない。

BASIC ENGLISH とは？



英語を自由に 話し書くための 最短コース

まがりなりにも自分の意志を伝えることが、比較的早くできるようになる。また、Full English へのしっかりした土台づくりにもなる。

英米の慣用に しばられない 国際語を採用

英米の文化を土壌として生成されてきた慣用句は、人類全体としてみれば地域性が強い表現とみなされ、意思疎通の障壁にさえなる。

C.K. オグデン

1889-1957 / イギリス

BASIC ENGLISH 開発者。

今日のコンピュータ・プログラムのアルゴリズム創成の土台づくりに大いに貢献した名著『意味の意味』(The meaning of meaning, 1923) の共著者であり、20 種を超える言語に精通していた天才。